


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 重症心身障がい児(者)病棟
新築移転
2. 医療観察法病棟建築着工
3. 職場紹介
4. 看護の日行事

重症心身障がい児(者)病棟の新築移転

第4病棟 看護師長 清水泰史

● 長い歴史を刻み老朽化した重症心身障がい児(者)病棟の新築移転事業は、患者さん・ご家族の皆様、職員みんなの悲願でした。院長の大英断のもと、新築移転の構想は着々と進められ、職員一丸となって暖めてまいりました。近年まれに見る大雪に遭遇し、工期は若干の延期を余儀なくされましたが、私達が×ディと呼んだ平成24年5月8日、無事に移転を成功させ今日に至ります。

この計画には単純ではない幾つかの課題がありました。これまでの4つの病棟を3つにすること。それには重症の患者さんを集約し、より濃厚な医療ケアを計画的に提供する病棟と、日常生活の援助を主とする病棟に分け、機能特化を進めること。職員も再配置し、移転直後からそれまで知らない患者さん・職員同士の病棟であっても、数時間前と何等変わらない生活が送れるよう全ての環境を整えること。半日で152名の患者さんの移送を完了させ、新しい病棟で昼食を摂れること、等々です。物品の移転配置や購入計画、新病棟でのスタッフ一人ひとりの役割の明確化やチーム編成、業務の基準策定など、ハード・ソフト両面の計画が同時進行でした。

刻一刻と×ディは迫り、前夜最終の打ち合わせをおこないその朝は来ました。9時ちょうど、本当に静かに移送は始まりました。まずはレスピレーターを装着した人、ベッドの人、車いすの人…。あたかも時が止まったかのような静寂の中、その流れは留まることなく、無事午前中に移送は完了しました。

移送の連携の良さ、チームプレーの素晴らしさは感動的でした。この日は患者さんにとって知らない人の声や顔が行きかい、そして初めて見る色や匂いの空間に移動し、何が起こったのだろうというハラハラドキドキの日だったと思います。そんな緊張の中にあっても慌てることなく協力した患者さんは、移送計画の最も重要なメンバーの一員でした。患者さんと一緒に乗り越え、一緒に成功した移転だったと言えます。

(2面へつづく)

環境が変わって3か月経ちました。それまで大きな部屋でみんなと一緒に過ごすことが当たり前でしたが、今は個々の空間を持ち、プライバシーが守られ、テレビや音楽も自由に見聞きできる新しい生活を満喫されています。私達はまだまだ試行錯誤の毎日ですが、これからも一人ひとりの患者さんがより良い療養生活を送れるよう、一緒に感じ、一緒に考え、新しい器に相応しい中身作りを進めたいと考えます。



移送の様様



重症心身障がい病棟4階から見える北側の風景

● 感情医工学研究所の設立 ●

臨床研究部 植田 俊 幸

5月23日に「感情医工学研究所」が鳥取環境大学内に設立されました。ここでは、こころの健康に役立つコンピュータープログラムの開発を行うためにIT企業のLASSIC（ラシック）、鳥取環境大学、そして当院の3者が共同して研究が行われます。LASSICは鳥取市若葉台にあるIT企業ですが、都会の企業に勤める人たちに鳥取に滞在してもらい、農業体験などを取り入れて健康増進をはかるといった、企業むけのメンタルヘルス研修プログラムの開発も行っています。

私は精神保健の仕事のひとつとして、智頭町で行っている森林セラピーのセラピスト養成講座に関わっていましたが、そこでLASSICの研修プログラムと接点があったのがきっかけで、研究事業に関わることとなりました。

研究の当面の目標としては、人間と会話できるプログラムの開発を目指しています。精神医学の立場からみると、「感情」を普段の仕事でどう扱っているかを見直す良い機会になりそうです。「なんとなく」「経験と勘で」「臨機応変に」「相手に合わせて」やっていることを、コンピュータにわかる方法で示すためには、はっきりと手順を伝えないとはいけません。今までもコミュニケーション研修会などで、相手の気持ちや考えに寄り添うための技術を分かりやす

く伝えるように心がけていましたが、今まで以上に自分の技術を試されているような感じです。

コンピュータ技術が人間の感情を本当に理解する領域に達するのには長い時間がかかりそうですが、研究の成果を楽しみにしていただければと思います。



平成24年5月24日付 日本海新聞掲載

● 医療観察法病棟建築着工に伴う安全祈願式について ●

庶務班長 小田原 栄

医療観察法病棟建築着工に伴う安全祈願式が6月28日（木）11時から齊主三津神社宇田川宮司のもと執り行われました。病院としては病棟等更新築整備工事全体の着工式として昨年安全祈願祭を執り行っていますので、今回の安全祈願式は医療観察法病棟建築着工に伴う作業安全のために、出席者は工事関係者と当院職員のみとなりましたが、

当日は晴天に恵まれ、旧重症心身障がい病棟（5病棟、6病棟）を解体した跡地で行われました。

現在、当院の医療観察法病床は9病棟に8床ありますが、医療観察法病棟が完成すると17床の単独病棟となります。なお、完成予定時期は25年1月となっています。



安全祈願式の模様



医療観察法病棟完成予想図

● 平成24年度永年勤続表彰伝達式について ●

庶務班長 小田原 栄

5月29日（火）15時から新築移転となった重心病棟4階の新しい大会議室で、永年勤続表彰伝達式が行われました。伝達式では30年以上勤務者8名、20年以上勤務者8名の16名（5名欠席）が表彰され、田院長から表彰状と記念品が贈呈されました。

30年以上勤続表彰者

臨床検査技師長	平内 洋一
准看護師	太田 和枝
副診療放射線技師長	井川 昭二
看護師	北山 明子
副臨床検査技師長	林 久美子
看護師	辰巳 節恵

看護師	山田 さえみ
ポイラー技士長	田賀 宣夫
20年以上表彰者	
神経内科医長	金藤 大三
副看護師長	井手添 典子
看護師	石破 久美
看護師	多内 留里子
看護師	田中 美智子
副看護師長	森原 賀都子
保育士	君野 淳子
主任調理師	片山 博



○ 職場紹介 ～リハビリテーション科(身体障害部門)～ ○

理学療法主任 桑本美由紀

当院リハビリテーション科身体障がい者部門（以下、身障リハ部門）には、理学療法士14名・作業療法士8名・言語聴覚士5名の27名が在籍しています。

平成23年12月にオープンした新しい機能訓練棟は、総面積437㎡の明るく、広々した訓練室で、窓の外には四季折々の日本海の景色を眺めることができます。特徴として、理学療法・作業療法・言語療法の訓練室がワンフロアに配置されており、朝から夕方まで活気のある空間となっています。各療法の訓練風景を見ることができ、患者様同士やスタッフ間の情報交換に役立っています。

当院身障リハ部門は、回復期リハビリ病棟、重症心身障がい児者病棟、神経筋難病病棟、一般病棟、精神科病棟、通園事業、外来など、様々な訓練を担当しています。今年度からは、病棟担当制を取り入れ、各病棟と密に情報共有ができる体制をとっています。今年度の大きな変化といえば、5月に重症心身障がい児者病棟が新築され、3病棟に編成されました。リハビリ科でも担当スタッフの数を増やし、訓練の機会だけでなく、患者様それぞれに安全で快適な療育生活を提供できるよう協働しています。

また、今年6月には12病棟が回復期リハビリテーション病棟の施設基準の承認を受け、本格稼働しています。リハビリ科では各患者様に一人ひとりに適した機能訓練を実施するとともに、病棟看護師と協力し退院後の生活を想定しながら、病棟リハビリに取り組ん

でいます。また、土曜・日曜・祝日もリハビリテーションが提供できるよう4～5名のスタッフが出勤し「365日リハビリテーション」を実施しています。急性期から回復期にかけて、切れ目ないリハビリテーションを継続することで、患者様の早期回復と早期退院を目指しています。

今年度からリハビリ科で作成した新人教育プログラムに基づいて、リハ科内の教育だけでなく様々な職種の方に指導していただいています。院内外の研修にも積極的に参加し、スキルアップを図っています。

曽根機能訓練室長、野崎理学療法士長のもと、個々のスタッフが切磋琢磨し、患者様に安全で効果的な訓練が提供できるよう努力していきたいと考えています。



○ 職場紹介 ～療育指導室～ ○

療育指導室長 村重薫

この砂丘誌において、重症心身障がい病棟の行事の紹介等でたびたび登場している療育指導室です。

重症心身障がい病棟では、重度の身体障がいと重度の知的障がいをあわせ持った方が入院利用され、医療的な管理のもとに生活されています。年齢は様々で、こどもからおとなまでおられます。

療育指導室は児童指導員と保育士によって構成され、重症心身障がい病棟の患者さんに充実した生活

を送っていただけるよう、それぞれの専門性を生かし、日々の療育提供や日常生活の支援を行っています。特に今年度は、日中活動の充実のため集団療育活動等の充実に努めています。音楽が好きな人、描画に関心がある人、ゆったりとした時間を過ごしたい人、屋外に出て気分転換をしたい人、遊具を使って感覚運動遊びを楽しみたい人、保育的な活動が好きな人・・・が参加できて、楽しめるよう毎回工夫

をしながら取り組んでいます。

冒頭でふれたように行事にも取り組んでいます。祭りとか小旅行とかのイベントは長期の入院生活においてアクセントとなり生活意欲を増進させるものです。療育活動と同様に重要な活動と位置付けています。季節感を取り入れながら日ごろ味わえない活動を提供するように心がけています。

この他に、「障害児入所支援」「療養介護」等の福祉制度に関する対応を行っており、関係行政機関と連携して患者さんとその家族等に安心して利用していただけるように努めています。

また、地域とのかかわりは重要と考え行事支援ボランティアの受け入れ対応や小児科外来の患者さんへの心理検査も担当しています。

患者さんの声にならない声に耳を傾けその期待に応えるよう努める療育指導室です。よろしくお願いいたします。



◎ 職場紹介 ～リハビリテーション科(精神科作業療法部門)～ ◎

作業療法主任 岸 純子

精神科作業療法部門では、入院患者様の作業療法および在宅患者様のデイケア・AOT（積極的訪問チーム）などの業務を、関係職種とチーム連携し担当しています。

スタッフは作業療法士8名、作業療法助手2名、看護師1名（非常勤）、臨床心理士1名（兼務）が勤務しています。

精神科作業療法では、様々な作業活動を用いることで、病気の回復を促し、日常生活や地域で暮らしていくために必要な技能を身につけていきます。作業活動として、手工芸や簡単な運動、音楽、家事や軽作業など幅広い活動を利用します。参加される方の目的は様々ですが、例えば、「生活技術を身につけ

たい」「対人コミュニケーションが上手になりたい」「体力をつけたい」「気分転換をしたい」などがあります。

作業療法士の活躍する場は、精神科急性期～慢性期病棟・医療観察病棟の入院患者様の作業療法をはじめ、デイケアでの外来作業療法やAOT（積極的訪問チーム）での多職種チームでも活動しています。写真はデイケアの園芸プログラムです。参加メンバーと一緒に植える野菜を決め、畑の畝を作り、植え付けをしました。成長過程を写真にとり、園芸日誌も一緒に作っています。できた野菜で、調理実習をするのがとても楽しみです。



園芸プログラムで実ったキュウリ

○ 職場紹介 ～9病棟～ ○

看護師 高橋 晃

私達の働く9病棟は精神科病棟です。ここでは、精神保健福祉法に基づく患者様と、医療観察法による患者様が、それぞれに治療を受けられている病棟です。

医療観察法病床の開床当初は、患者様へのアプローチの方法について戸惑いやジレンマを抱えていました。しかし、実際に患者様と関わるうちに、法律やアプローチの仕方が異なっても、入院しておられる患者様の目指す場所は皆さん同じく、“地域へ帰り、自分らしく生き生きと生活することなんだ”ということスタッフで話し合いながら、再確認することができました。今では、一人一人の患者様の気持ちに寄り添った医療を提供していきたいという気持ちを大切にしながら、日々看護にあたっています。

また、当病棟に入院中の患者様の多くは、経過が長く、中には10年以上も入院されている方もあります。私達看護師は

患者様の大切な時間を預かることを任された医療者として、患者様と向き合い、一瞬一瞬を大切にしながら支援を続けていきたいと思っています。そして、一人でも多くの患者様が少しでも早く地域で生活ができるように取り組んでいきたいとスタッフ一同考えています。



○ 職場紹介 ～5病棟～ ○

看護師長 岡本 聖子

5病棟は、新重症心身障がい児(者)病棟の3階にあります。病床は55床で現在は53名の入院患者様と週末に短期入所患者様が入れられます。

当病棟では重度の障害を持っているにもかかわらず食事を自力で摂取しようとされたり、お風呂に入るために衣服を脱がれる患者様がおられます。食事を自力で摂取しようとされる方には食べるための用具や姿勢を工夫したり、摂食嚥下療法を取り入れたりしています。衣服の色・デザインに興味がある患者様には衣服を選んで頂くなど患者様おひとりおひとりに合わせた関わりを大切にしています。

長い期間入院されている患者様が多い病棟なので、ご家族が、面会日や外出行事日に合わせて来られた時を大切に、日頃の生活の様子をお伝えしたり掲示板の写真で元気で過ごしている姿や成長している姿をお知らせしたりしています。

患者様に心地よい環境を提供できるように看護師、療養介助員、看護助手、児童指導員、保育士がチーム一丸となって明るく元気な職場作りを心がけています。



看護の日の行事

～看護の心を、看護の素晴らしさを伝えよう～

看護師長 川本英津子



鳥取医療センターでは、毎年「看護の日」の行事をナイチンゲール生誕日の5月に行っています。「看護の心を、看護の素晴らしさを皆の心に」をテーマに、また同時に鳥取医療センターの看護の心をひとりでも多くの方に知って頂けるようにと実施しました。今年は病院名の入った旗とベストを揃えて頂き、今まで以上に目を引く会場となりました。

院内行事としては、絵画展示とメッセージカード配布をしました。“私のお母さん・お父さんは看護師さん”のタイトルで看護職員のお子さんに絵画を描いてもらいました。50枚の絵画が集まり、院内売店の廊下に1週間展示しました。描いたお子さんや病院内の職員・面会の方々に絵画の前で足を止めて見て頂きました。また、入院中の患者様には、看護師が患者様個別にメッセージカードを作成し、看護の日に手渡したり、病棟での展示を行いました。

院外行事としては、5月13日（日）鳥取市内のス

ーパーの店外スペースで行いました。看護の日行事委員会を中心に院内ボランティアを募集し、看護部、医師、薬剤師、リハビリ室職員、事務職員を含む総計39名の協力を得て実施できました。

当日は五月晴れの中、10時から13時の3時間行いました。会場準備では、テント2張りを実行委員と男性職員が音頭をとり、全員で設営が出来ました。今年は楽しめる企画としてバルーンアートを取り入れ、健康チェックには骨密度測定と脳年齢、呼吸機能測定の検査機器を増や

しました。会場前では、カード・カット絆を配りイベントをアピールし来場を促しました。来場者数は、総数68名の参加でした。バルーンアートでは子ども達が一緒に作成しながら歓声があり、和気藹々とした雰囲気が集客に効果がありました。健康チェックには、順番待ちができるほど反響があり大変好評でした。健康相談では、日頃の検査結果についての質問や日常生活についての医師への相談や問い合わせもあり、皆様の健康についての思いを知ることができました。また、パンフレットを配布しながら脳ドックや健診や健康診断の相談を受けたり、学生には就職相談で看護師奨学金制度を説明したりと、幅広い層へ鳥取医療センターをアピールができました。これらの行事を通して出会えた方々には、「看護の心を、看護の素晴らしさ」を知っていただけたのではないかと思います。



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成24年7月1日現在

			月	火	水	木	金	
内科	循環器		松本		松本	松本	松本	
	呼吸器		山本	山本	山本			
神経内科			1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充
			2	下田	下田	金藤 (嚙下外来)	土居充	土井あかね
			3	小西	土井あかね	齋藤	小西	井上
			4				三島	
小児科			中野	小松	赤星	中野	赤星	
精神科	初診 (完全予約制)	診察室6	急患のみ	岩田	坂本	幡	高田	
	再診	診察室1	高田	助川	土井清	高田	柏木	
		診察室2		坂本		助川	土井清	
		診察室3	岩田	幡	幡	岩田	坂本	
		診察室5		池成		林		
		診察室8			岡田			
外科			古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
専門外来	睡眠外来 (完全予約制)	精神科5	坂本		高田			
	神経内科 (予約制)		失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚙下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
	小児科 (予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野/関			
リハビリ入院相談		地域医療連携室	金藤	金藤	金藤	金藤	金藤	
					予防接種 15:00~16:00	第3水曜日の予防接種は予約なし		

◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地

◆電話 0857-59-1111

◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分

◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分（睡眠外来の受付時間は午前中です）

◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。

◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nistori/>

◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111（内線275） FAX 0857-59-0713